



イカの足はどうして2本だけ長いあしの

長い足は、イカの武器なが あし ぶ き

イカの足は10本あります。そのうち、2本だけが特別長くて大きい足です。この足のことを、触腕とよびます。触腕についている吸ばんも、大きくて強い吸着力をもっています。しかも、吸ばんのふちをよく見ると、ぎざぎざになった輪の形でつめがついています。

この長い触腕は、イカが獲物をとらえるときの道具です。獲物を見つけるとそっと近づき、触腕の少しふくらんだ先についている吸ばんで、獲物をつかまえます。イカの種類によっては、この吸ばんのぎざぎざのつめが、獲物を引っ掛けやすいように、かぎのようになっているものもあります。獲物をつかまえた後は、獲物がにげださないように、残りの短い足でだきかかえ、口にもっていきます。

イカの足は、けんかあしのときにも、泳ぎおよにも役立つやくだ

ときには、とらえた獲物をイカどうしが、触腕やほかの足をからませ合って、うばい合いをすることもあります。

泳ぐときは、そろえた足が、方向を決めるかじの役目をします。(監修・安部 義孝)

